

## 事業群評価調書(平成28年度実施)

基本戦略名	8 元気で豊かな農林水産業を育てる	事業群主管所属	農林部農産園芸課
施策名	(3) 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	課(室)長名	渋谷 隆秀
事業群名	① 品目別戦略の再構築(水田)	事業群関係課(室)	

### 1. 計画等概要

#### 【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)】

##### 《長崎県総合計画チャレンジ2020 本文》

米や果樹・施設・露地野菜、畜産物、木材などの品目毎に、品質向上や多収化、新技術・新品種導入、規模拡大や増頭などの生産性向上対策による定時・定量・定質の出荷体制を確保していく取組をはじめ、ブランド化やコスト縮減対策などしっかり稼ぐための対策を推進します。

事業群指標	最終目標 (H32)	基準値 (H25)	実績 (H26)	達成率	【進捗状況の分析】
産地計画策定産地の販売額	1,093億円	965億円	986億円	－	米については、消費量の減少等により生産数量目標が減少している中、栽培面積も年々減少している状況にある。平成26年産は、米の在庫量が豊富で、米価が25年と比較して1割以上安かったため、販売額は117億円と25年よりも24億円減となっている。 平成27年産は、平成26年産より栽培面積が減少し生産量は減少したものの、価格の上昇により販売額は26年産より増加する見込みである。
事業群の進捗状況					

#### 【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)の分析】

##### 《取組項目及び現状と課題》

###### i) 水田をフル活用した水田農業の展開

- ・米の生産量は年々減少しているが、農家の所得向上を図るため、高温耐性品種の導入拡大による単収の増加、品質の向上を図る必要がある。
- ・麦、大豆については、ニーズに沿った生産拡大を図り、団地化による作業の効率化や排水対策の徹底を図る必要がある。
- ・担い手が減少する中、今後の水田農業を支える担い手として、特定農業団体・法人等の育成が必要である。

###### ii) 米・麦・大豆の優良種子の確保供給

- ・優良品種の推進を図るためには、優良種子の確保供給が必須である。
- ・優良種子の安定生産・供給を図るためには、関係機関一体となり、種子生産計画の策定、技術指導、種子生産圃場および生産物の審査等を実施する必要がある。

###### iii) 需要に応じた米生産

- ・米は、需要に応じた適正な生産により米価維持を図るため、国が各都道府県に生産数量の配分を実施しており、本県も需要に応じた生産に取り組んでいる。
- ・本県は米移入県であり、各市町においては主食用米の目標生産数量が達成できるよう各地域農業再生協議会が中心となり、生産者に周知徹底する必要がある。
- ・平成30年からは国から生産数量の配分がされないこととなっているが、全国的に需要に応じた生産を継続しないと米価が下落し、消費県である本県にも影響が及び、さらには安い米が移入し、本県農業者に大きな影響を及ぼすため、取組体制を構築する必要がある。



### 3. 検証及び問題点の抽出

#### 【課題解決に向けて取り組んだ事務事業の実績の検証】

##### i) 水田をフル活用した水田農業の展開

水稲については、高温耐性品種「にこまる」を中心に作付を推進してきたが、熟期が遅い品種で不適地にも導入されており、熟期が早い高温耐性品種を導入していく必要があるため「なつほのか」の奨励品種採用に向け現地実証を実施する。本県は生産量よりも消費量が多い米の移入県であることから、適地適作により単収の向上・品質の向上を図り、限られた作付面積での所得向上を図っていく必要がある。併せて、麦・大豆等の作付拡大や加工業務用野菜等園芸品目の導入により所得向上を図る。

##### ii) 米・麦・大豆の優良種子の確保供給

米・麦・大豆の優良種子の確保供給に関しては、必要数量をもとに策定した生産計画どおりに種子を確保でき、安定生産に寄与している。

##### iii) 需要に応じた米生産推進の展開

国の政策である米の需要に応じた生産推進について、H27年産では国から配分された生産数量目標を達成している。

需要に応じた米生産に併せて水田フル活用を推進し、戦略作物の一つである新規需要米（WCS用稲・飼料用米等）の作付についてもH26年産作付面積730haからH27年産999haに増加している。



### 4. 29年度実施に向けた方向性

#### 【問題点解決に向けた方向性】

#### 【個別事務事業の見直し】

	個別事務事業の見直し		見直しの方向	見直し区分
	事務事業名	事業構築の視点		
i) 水田をフル活用した水田農業の展開 水田フル活用のため転作または裏作の重要な品目である麦の作付拡大を図り、所得向上を図る。	儲かるながさき水田 経営育成支援事業費	⑨	平成28年度は品目転換による集落営農組織の育成、排水対策など水田汎用化による麦・大豆・高収益品目導入等水田フル活用の取組を支援しているところ。特に米については、「にこまる」適地マップを作成し、「にこまる」等高温耐性優良品種への転換を進めているところである。麦については、全麦種とも実需者の要望量より不足しており、栽培面積の拡大が必要である。特に、本県育成小麦「長崎W2号」はちゃんぽん麺の商品化・限定販売ができたが、原料小麦が大幅に不足していることから、平成29年度は「長崎W2号」の生産拡大・ブランド化に取り組んでいく。	拡充
ii) 米・麦・大豆の優良種子の確保供給 従来同様、本事業の継続が必要である。	農作物種子対策費	—	これまで、米・麦・大豆の優良種子を確保供給するため、関係団体一体となった生産体制の強化を図ってきた。今後も優良種子の安定供給は継続的に実施すべきであることから、継続して事業を実施する。	現状維持
iii) 需要に応じた米生産推進の展開 従来同様、本事業の継続が必要である。				